

佐久市埋蔵文化財課調査報告書 第40集

縄文時代草創期の爪形文土器を出土する遺跡の発掘調査

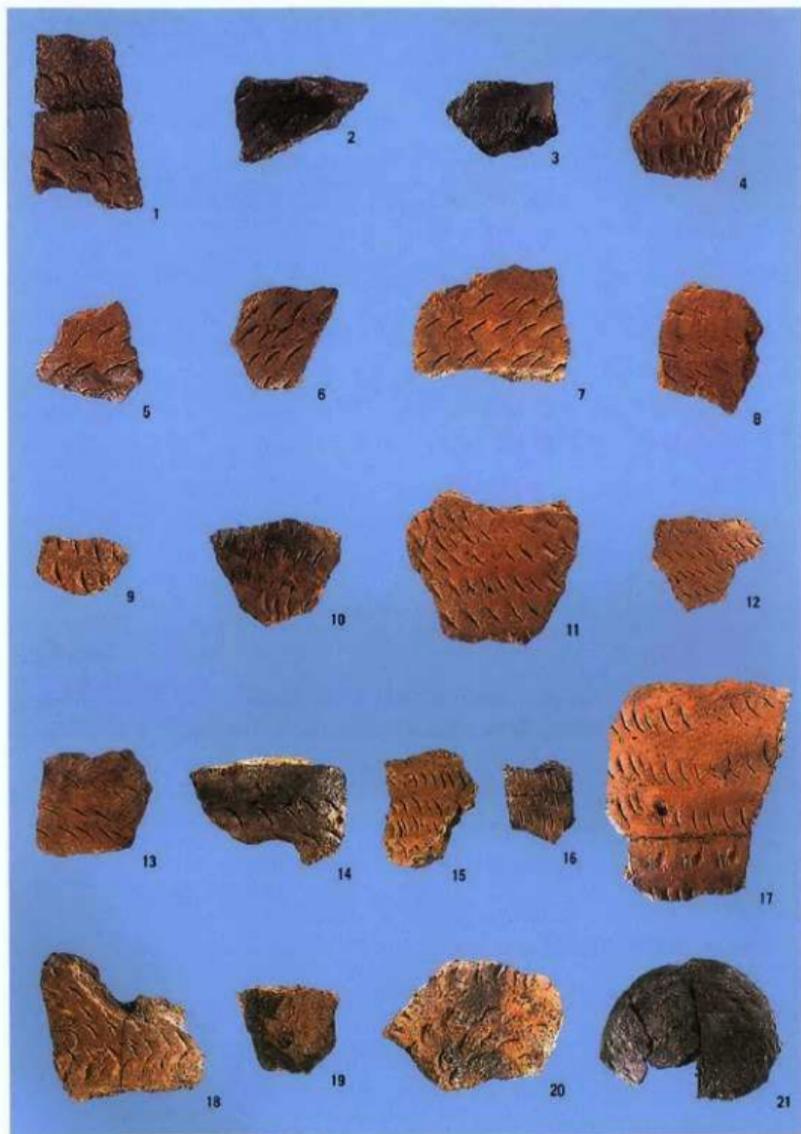
寺畑遺跡群 **寺畑遺跡**
TERABATAKE

長野県佐久市寺畑遺跡発掘調査報告書

1995. 3

佐 久 市

佐久市教育委員会



写1 寺烟遺跡出土爪形文土器

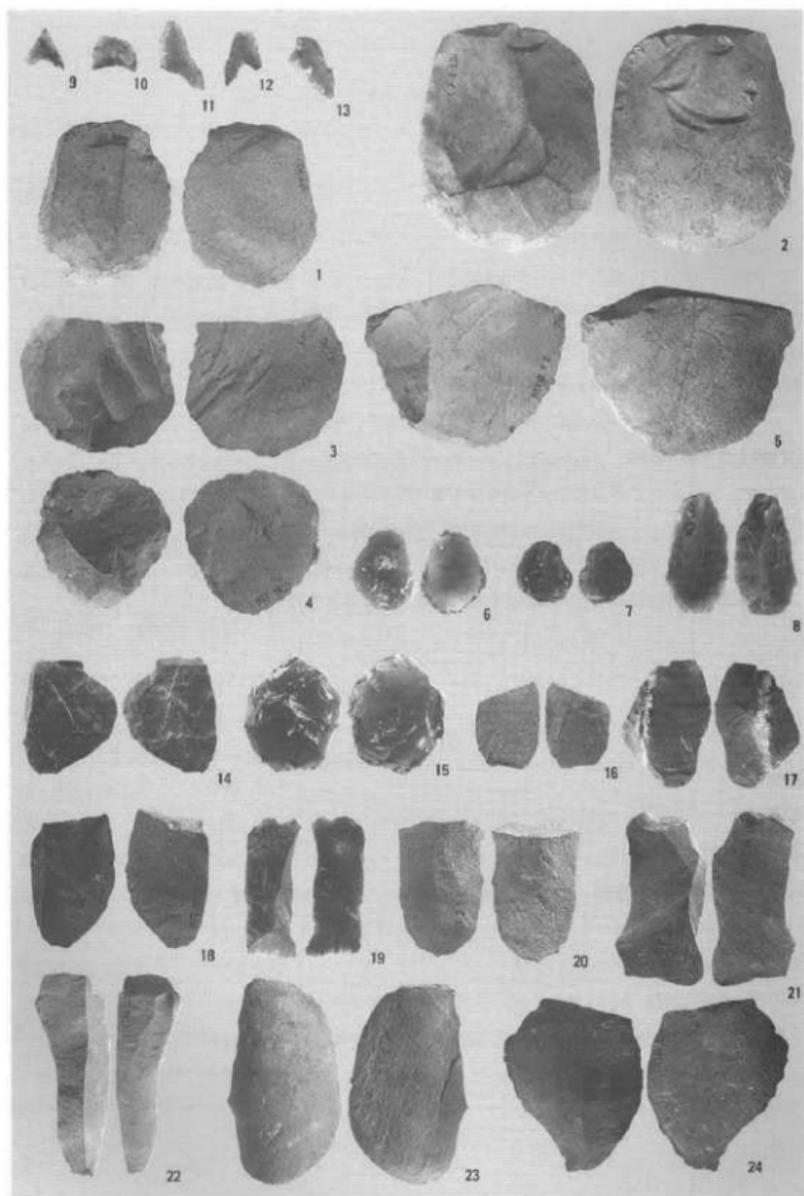


图2 寺烟道出土石器

例 言

- 1 本書は、都市計画道路332号小諾佐久白田線(地方道路整備臨時交付金街路事業)に伴う寺畑遺跡群寺畑遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市大字中込3056
佐久市都市計画課
- 3 調査主体者 佐久市大字中込3056
佐久市教育委員会 教育長 大井 季夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地積
寺畑遺跡群 寺畑遺跡 (NTT)
佐久市大字猿久保字下原591番地 他
- 5 調査期間及び面積
平成6年8月22日～平成7年3月31日
調査面積 1,500㎡(試掘調査3,074㎡)
- 6 本書の執筆・編集は、上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

目 次

例言・目次

写真図版

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の動機 1

第2節 調査体制 1

第II章 基本層序 4

第III章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 5

第2節 遺構外遺物 7

第IV章 調査のまとめ 12

図版

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査の動機

寺畑遺跡は、佐久市大字猿久保字下原地籍に所在し、遺跡の北方を東西方向に蛇行しながら流れる湯川の第二段丘面上に位置する。標高は 688 m を測る。

遺跡周辺には、湯川を挟んで対面する北側段丘上に弥生時代～平安時代にいたる数多くの遺構を検出した北西の久保遺跡（昭和 57、62 年度調査）が所在する。また同じ台地上の南側には中原遺跡群、東側には金比羅塚古墳・御経塚古墳の所在する番屋前遺跡群が展開する。このため寺畑遺跡についても遺構の存在は十分予測できた。

今回、佐久市都市計画課による地方道路整備臨時交付金街路事業とし、都市計画道路 332 号小諸佐久白田線道路整備が行われることとなり、平成 6 年 5 月 6 日～5 月 7 日にかけて試掘調査を行った。その結果、遺構・遺物の存在が確認され、発掘調査の必要が生じたため、佐久市教育委員会が主体となり、調査を実施する運びとなった。

第 2 節 調査体制

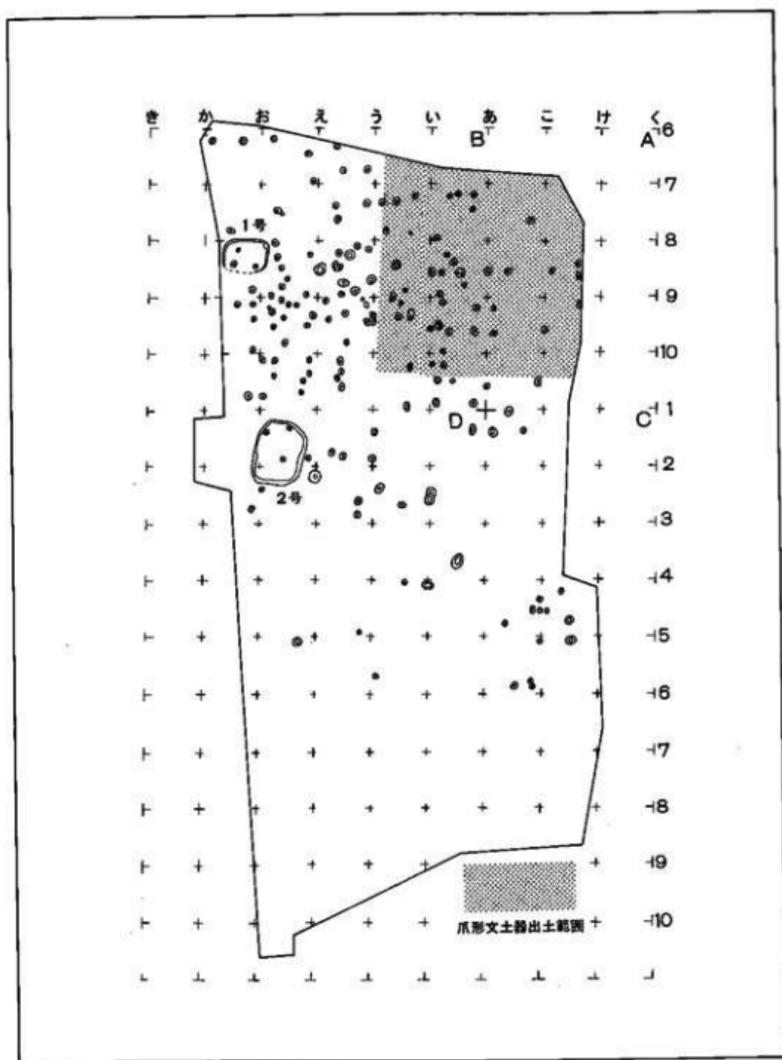
教 育 長	大井 季夫
教 育 次 長	奥原 秀雄
埋蔵文化財課長	戸塚 満
管 理 係 長	谷津 恭子
管 理 係	田村 和広
埋蔵文化財係長	草間 芳行
埋蔵文化財係	林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田 卓也 高沢 一明 上原 学
調 査 担 当 者	上原 学
調 査 員	荒井 ふみ子 江原 富子 棚沢 三之助 高地 正雄 小林 立江 小林 まさ子 清水 佐知子 高橋 サチコ 高橋 ふみ 花里 四之助 花里 三佐子 武者 幸彦 吉原 照美



第1図 寺畑遺跡位置図 (1 : 100,000)



第2図 寺畑遺跡位置図 (1 : 5,000)

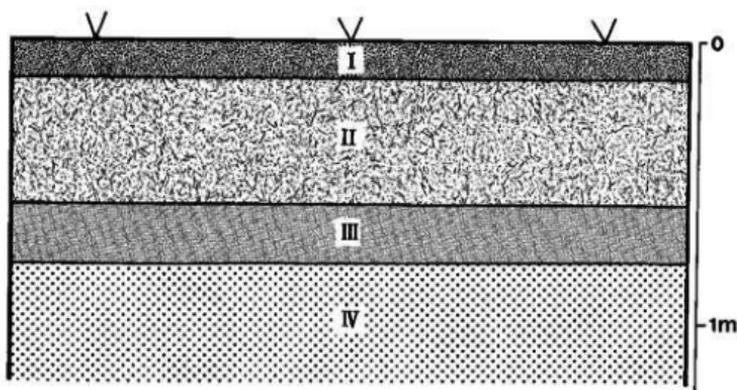


第3図 寺畑遺跡全体図

第II章 基本層序

寺畑遺跡群は、佐久市のほぼ中央、湯川の南岸段丘面上の標高 684～682 m 付近を測る比較的平坦な台地上に位置する。この地域は湯川が東西方向に流れており、川を挟んだ両岸には河岸段丘が発達している。

調査の対象となった寺畑遺跡は、寺畑遺跡群の北側、湯川によって形成された河岸段丘の第2段丘面北端に位置する。層序は、今回の調査で表土を含めIV層認められた。I層は耕作土(表土)で厚さ 15 cm を測り、黒褐色土を呈する。II層は厚さ 45 cm の黒褐色で、I層に比べしまりがある。III層は厚さ 20 cm の黄褐色土で、この面が遺構の検出面である。IV層は湯川の浸食作用によって形成された、しまりのない砂質の明黄褐色ローム層である。(P1ローム)



第4図 基本層序模式図

- I層 黒褐色土 (10 YR 2/2) 耕作土。しまりなし。
- II層 黒褐色土 (10 YR 2/3) 炭化物・ローム粒含む。しまりあり。
- III層 黄褐色土 (10 YR 5/6) " "
- IV層 明黄褐色土 (10 YR 6/6) 砂質・軽石含む。しまりなし。

第Ⅲ章 遺構と遺物

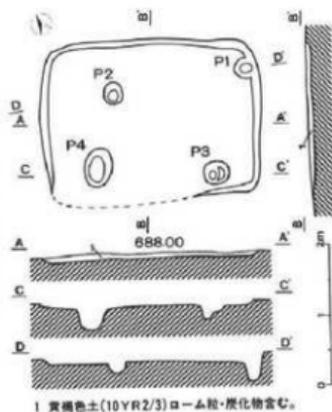
第1節 住居址

1) 1号住居 (弥生時代)

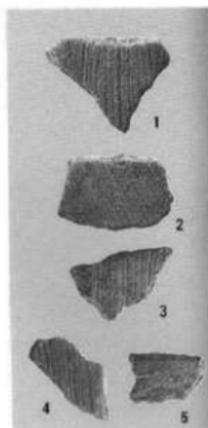
H1号住居址は、調査区のほぼ中央B-お-8グリットに位置する。

平面形は南北2.2m、東西3.2mのやや東西方向に長い隅丸方形を呈する。覆土は単層である。壁高は最大10cmと浅く、南壁3分の2は確認できない。床面は全体に堅くしまり、貼り床状をしめす。ピットは4個確認できた。ピットの深さは、P1・32cm、P2・20cm、P3・16cm、P4・30cmである。床面には焼土がわずかに認められるが、炉などの施設は確認できない。

遺物は弥生式土器片5点出土した。このうち4点は表に刷毛目板を持ち、1点は両面に赤色塗彩を施した小破片である。



第5図 1号住居実測図



写3 出土遺物

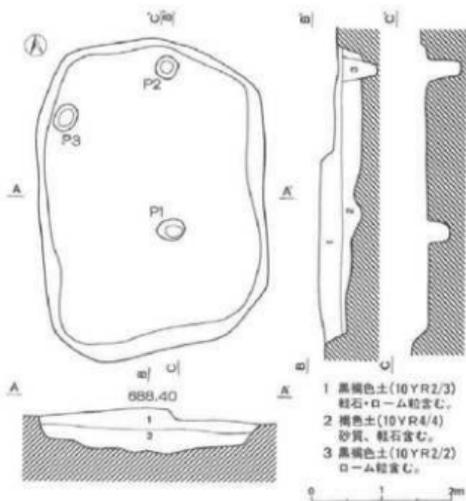


写4 1号住居址全景

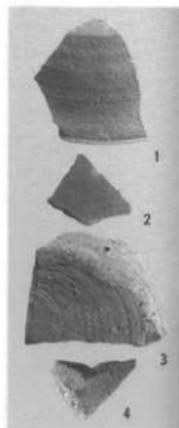
2) 2号住居 (平安時代)

2号住居は、調査区西側D-え-2グリット付近に位置する。平面形は、南北4.5m、東西3.2mの隅丸方形を呈する。覆土は2層確認でき、I層が黒褐色土、II層が黄褐色土である。壁高は確認面から20cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は中央部に一部貼り床が認められ、ピットは3個確認できた。ピットの深さは、P1・40cm、P2・60cm、P3・45cmである。

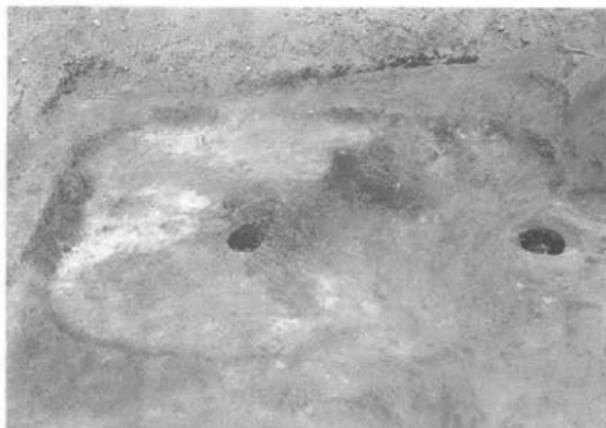
遺物は、第II層中から須恵器片4点を出土した。1、2は蓋で、焼成は良好である。3は坏の底部で、糸切り底を残す。焼成は良好である。4は坏の体部で、焼成は不良である。



第6図 2号住居実測図



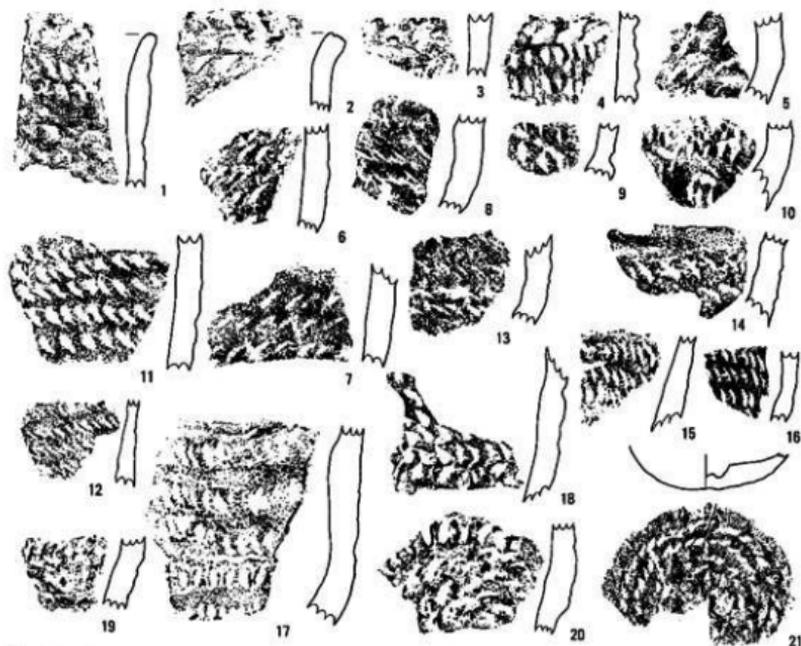
写5 出土遺物



写6 2号住居址全景

第2節 遺構外遺物

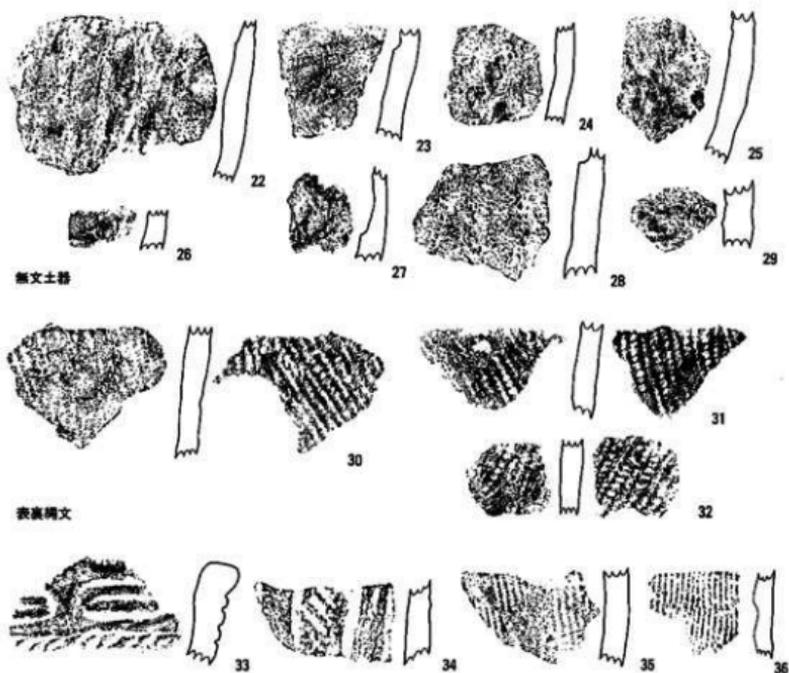
寺畑遺跡の遺構外遺物としては、縄文時代の土器片（爪形文土器・無文土器・表裏縄文土器）及び石器（掻器・削器・剥片）が出土している。これらの遺物は本遺跡、基本土層第Ⅲ層の遺構検出段階において出土した一括遺物である。



第7図 爪形文土器実測図 1：2

1、2は口縁部である。1は左傾斜、2は右傾斜の爪形文が横方向に連続して施されている。また口縁部にも爪形文が認められる。3は上3分の1はナテ、3分の2はやや右傾斜の爪形文を横方向に連続して施す。4は上1段が右傾斜、下2段はやや左傾斜の爪形文を横方向に連続して施す。異なる方向の爪形文が認められる。5、6、7は下方向に湾曲する右傾斜の爪形文を横方向に連続して施す。8、9、10、11、12は上方向に湾曲する左傾斜の爪形文を横方向に連続して施す。13、14、15、16は下方向に湾曲する左傾斜の爪形文を横方向に連続して施す。17は大部分は左傾斜の爪形文を横方向に連続して施すが、4段目は左傾斜・右傾斜と交互に施されへの字状を

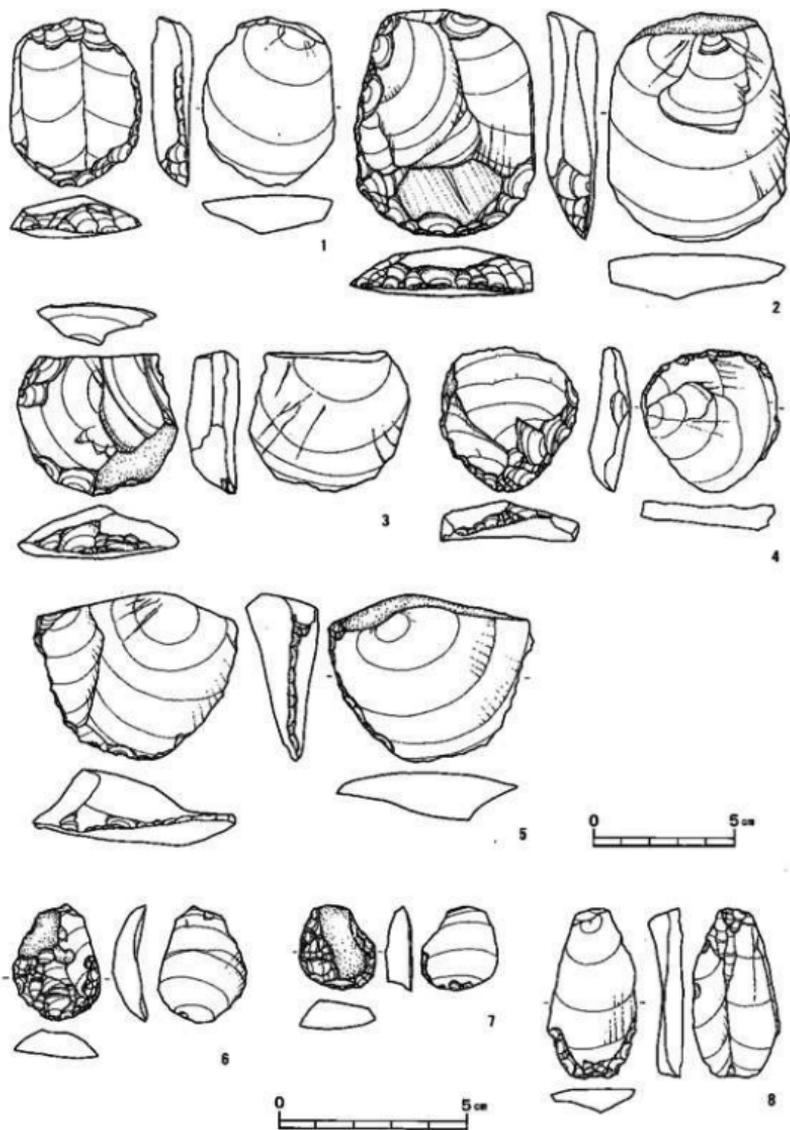
呈する。18は上3段は左傾斜の爪形文が横方向に連続して施され、4段目は右傾斜の爪形文が横方向に連続して施される。19は左傾斜、右傾斜の異方向の爪形文が認められる。20は円を描くように爪形文が施されているが、外側一列はやや垂直方向に爪形文が施されているため底部に近い部分と考えられる。21は底部で丸底である。爪形文は底部中央から円を描くように施されている。(第7図・写1参照)



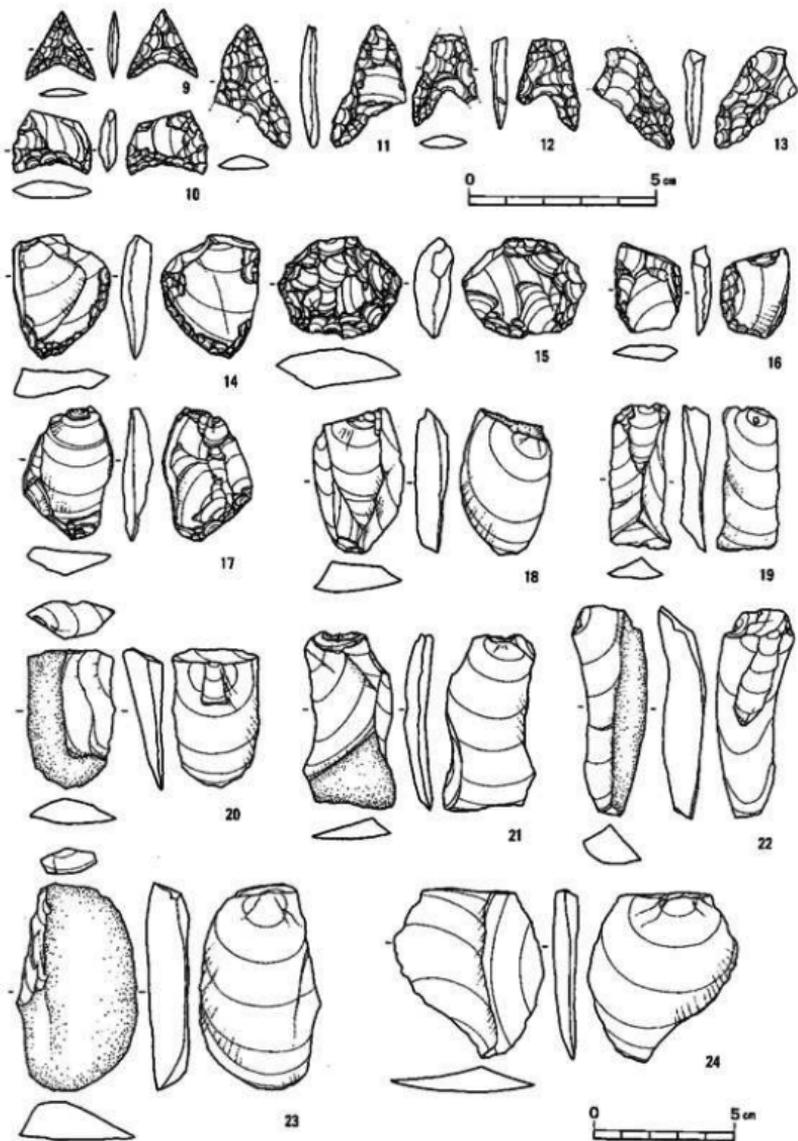
第8図 縄文土器実測図(無文土器・表裏縄文土器他) 1:2

22~29は無文土器で指頭押圧痕を表裏に残す。焼成・胎土はともに良好である。30、31、32は表裏縄文である。30、31はR L縄文 32はL R縄文が施されている。33は口縁部で文様は沈線によって構成されている。34は縦方向の沈線と縄文が施されている。35はL R縄文を施す。36はR摺糸単軸結条体を施す。(第8図・写10、11、12参照)37、38は磨石で材質は軽石である。(写13参照)

39、40は中世の青磁片(連弁文青磁碗)である。(写14参照)



第9图 石器实测图 (1-5=1:2 6-8=2:3)



第10图 石器实测图 (9~13=2:3 14~24=1:2)

挿図番号	器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重 量	備 考
1	播 器	安 山 岩	6.0	4.1	1.3	48.0	M3出土
2	播 器	安 山 岩	8.1	6.4	1.8	117.8	Dイ2グリッド出土
3	播 器	黒色安山岩	5.0	5.4	1.7	54.1	M3出土
4	播 器	黒色安山岩	5.1	4.8	1.0	28.7	
5	播 器	チャート	5.9	7.2	2.4	80.8	Dイ2グリッド出土
6	播 器	黒 曜 石	3.1	2.3	0.6	4.4	
7	播 器	黒 曜 石	2.3	2.0	0.7	3.5	
8	播 器	チャート	4.5	2.4	0.7	7.9	
9	石 鏃	黒 曜 石	1.6	1.6	0.2	0.3	
10	石 鏃	チャート	1.4	1.8	0.3	0.9	Dイ2グリッド出土 先端欠損
11	石 鏃	黒 曜 石	2.8	1.7	0.4	1.0	左脚部欠損
12	石 鏃	チャート	2.0	1.4	0.3	0.8	先端・右脚部欠損
13	石 鏃	黒 曜 石	2.2	1.8	0.4	1.1	脚部
14	削 器	チャート	4.3	3.4	1.0	14.2	
15	削 器	黒 曜 石	3.6	4.4	1.3	19.4	
16	削 器	黒色安山岩	3.2	2.4	0.6	4.7	
17	模彩石器	チャート	4.7	3.0	0.8	11.4	右側縁微細刻離
18	剥 片	黒色安山岩	5.1	3.2	1.1	17.3	
19	剥 片	チャート	5.2	2.0	0.7	7.5	Cア2グリッド出土 両側縁微細刻離
20	剥 片	黒色安山岩	5.0	3.1	1.2	15.3	Dウ5グリッド出土
21	剥 片	黒色安山岩	6.2	3.1	0.7	14.7	左側縁微細刻離
22	剥 片	安 山 岩	7.4	2.5	1.4	22.6	
23	剥 片	安 山 岩	7.4	4.3	1.4	55.2	Dイ3グリッド出土
24	剥 片	黒色安山岩	6.0	5.1	1.0	24.7	

表1 石器計測表

単位はcm・g

第IV章 調査のまとめ

寺畑遺跡の調査によって、弥生時代の住居址1軒、平安時代の住居址1軒、ピット多数を検出した。このほか遺構検出段階において、縄文草創期の爪形文土器、中世の青磁（蓮弁文青磁碗）などが出土している。

今回の遺構の検出は住居址2軒にとどまったが、検出段階において出土した遺物の中には、特徴的なものが含まれている。特に爪形文土器は、佐久市において初めての出土例で、出土数は21片を数える。土器片の中には口縁部・体部・底部が認められ、土器の全体像をうかがい知ることができるほか、爪形文の施文方法・厚みなど考察すべき多くの特徴をそなえている。さらに、爪形文土器に伴われると思われる石器も数多く出土しており、土器・石器との関係も興味深い。

また、中世の青磁（蓮弁文青磁碗）については、今回の調査で2点出土している。寺畑遺跡から多くの時期不明のピットが検出されていることなどを考えあわせると、中世の遺構の存在も考え得る。

今回の寺畑遺跡の発掘調査では、遺構の数こそわずかであるが、これまで佐久市においてその存在が不明であった縄文草創期の爪形文土器の発見をはじめとし、縄文時代から中世にいたる幅広い時期の遺構・遺物が認められた。これは今後周辺遺跡の調査を行ううえで貴重な資料の一つになるであろう。



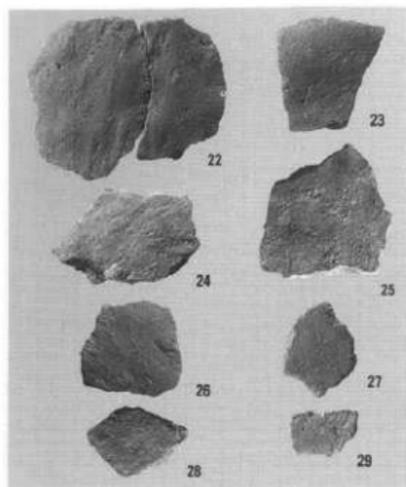
写7 寺畑遺跡全景



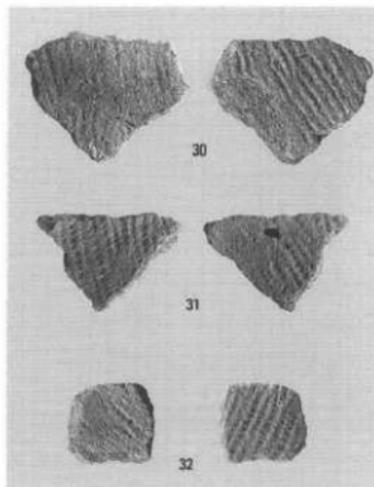
写8 2号住居周辺ピット群



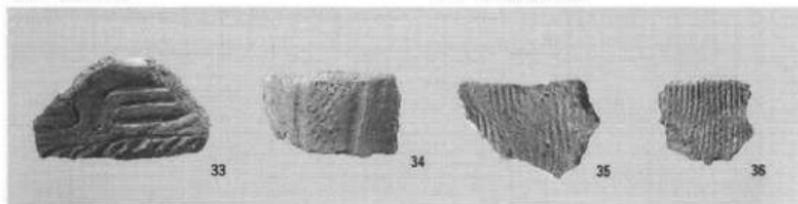
写9 調査風景



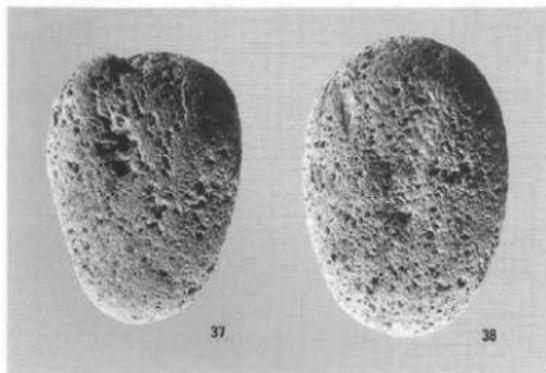
写10 無文土器



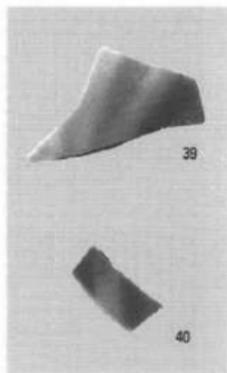
写11 表裏縄文土器



写12 縄文土器



写13 磨石



写14 青磁碗

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 第1集 『金井城跡』 | 第21集 『金井城跡III』 |
| 第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 |
| 第3集 『石附宮址群III』 | 第23集 『南上中原・南下中原遺跡』 |
| 第4集 『大ふけ遺跡』 | 第24集 『上聖嶋遺跡』 |
| 第5集 『立科F遺跡』 | 第25集 『上久保田向IV』 |
| 第6集 『上曾根遺跡』 | 第26集 『麻塚古墳群・麻塚II』 |
| 第7集 『三貫畑遺跡』 | 第27集 『上久保田向III』 |
| 第8集 『瀧の下遺跡』 | 第28集 『曾根新城V』 |
| 第9集 『国道141号線関係遺跡』 | 第29集 『山法師遺跡B、黄村遺跡B』 |
| 第10集 『聖原遺跡II』 | 第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 |
| 第11集 『赤塚外遺跡』 | 第31集 『山法師遺跡A、黄村遺跡A』 |
| 第12集 『苦宮遺跡II』 | 第32集 『家ノ割遺跡』 |
| 第13集 『上高山遺跡II』 | 第33集 『聖原遺跡VII、下曾根遺跡I、
前藤部遺跡I』 |
| 第14集 『栗毛坂遺跡』 | 第34集 『西一本柳遺跡』 |
| 第15集 『野島久保遺跡』 | 第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 |
| 第16集 『石並城跡』 | 第36集 『蛇塚B遺跡III』 |
| 第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
(1月～3月) | 第37集 『西一本柳遺跡II』 |
| 第18集 『西曾根遺跡』 | 第38集 『南下中原遺跡II』 |
| 第19集 『上芝宮遺跡』 | 第39集 『平賀・中屋敷遺跡』 |
| 第20集 『下聖嶋遺跡III』 | |

佐久市埋蔵文化財調査報告書第40集

寺畑遺跡調査報告書

1995年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市中込3065

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 櫻 (いちい)

